

第1回「原子力災害に備えるための 実践体験学習 講座」の実施報告

原子力災害から命と健康を守るために必要な知識と技術、そして実習での体験を得る実践学習講座の第1回を今年2月から3月まで実施しました。オンラインで4回（8コマ）実施した基礎学習には全国また海外から14人が参加、そのうちの8名が実地研修まで参加しました。

放射線と放射性物質の基礎知識や測定法、被ばく防護法などを学び、原子力災害被災地での実践研修を通じて測定技術の習得と被ばく防護への対応力を身につけたリーダー的人材の育成を目的としています。3月22日（土）～23日（日）の実地研修を中心に報告します。（文責：大沼淳一）

【1日目】

帰還困難区域・浪江町津島地区「何もしなければ100年は帰れない」地へ郡山駅で集合し、事務局清水の運転するマイクロバスで1時間、津島地区へ。

津島地区の面積は95.5km²(山手線の内側の約1.5倍)で、約450世帯・1,400人が暮らしていました。原発事故時の高濃度放射能のため帰還困難区域とされました。2023年3月に特定再生復興拠点区域として整備（除染）、地区のわずか1.6%にあたる153haが規制解除され、復興住宅10棟ができ、現在10世帯が入居しているとのこと。残る98.4%は未だ帰還困難区域で、その一部は特定帰還居住区域として「帰りたい」人がいればその場所だけ除染されるとのこと、未だ全体の計画は示されていません。

- 「ふるさとを返せ 津島原発訴訟」原告団長 今野秀則さんをガイドに講義と見学



津島は、原発が爆発して浜通りの人々が避難してきて1000人ほどの集落に1万人ほどが集中したそう。体育館などの避難施設では足りなくて、多くの民家にも分宿したそうです。懸命に炊き出しなどをして避難者のお世話をしていたのですが、原発が次々と爆発し、高濃度の放射性プルームが襲来した15日に、支所の会議室に集合した馬場浪江町長以下のメンバーが、さらに西の二本松市への再避難を

決断したそうです。政府や東電からは何の情報も来ず、テレビ等を観て決めたそうです。

津島でもさらに線量が高いのが赤宇木地区です。事故当時、赤宇木地区の空間線量が異常に高くて、当時、名古屋でTVを観ながら心配していたところです。現在でも帰還困難区域のままです。現在Cラボの机の上にある分厚い資料集「100年後の子孫たちへ」は、この赤宇木の人々が制作しました。その編集メンバーのおひとりである今野邦彦さん、そして「津島訴訟」原告団長の今野秀則さんが津島活性化センターの玄関で待っていてくれました。津島訴訟の柱は賠償と津島の元通りの回復(原状回復)でした。仙台地裁判決では東電と国の責任を認めて賠償せよでしたが、津島を元通りにせよの訴えにはゼロ回答でした。そのため、現在は仙台高裁で控訴審が

続いています。



昼食後に、今野秀則さんから津島の歴史や汚染の現況、津島訴訟のことなど熱の入った解説が1時間半ほど続きました。そのあと、津島スクリーニング場で防護服に着替えてから、秀則さんに津島地区の案内をしていただきました。津島診療所の前では、浜通りの避難者が押し寄せたときに、持病を抱えた人々や体調不良の人々が診療所の前に長い列を作ったこと、その診察に当たった医師は3日間連続して診療所の中に居たにもかかわらずかなりの被ばくをしていたことが後の積算線量計の記録から判明したこと、ということは診療所の前に並んだ避難者たちは襲来した放射性プルームでかなりの被ばくをしたに違いないという話を聞きました。



阿武隈山地の中ほどに開けた津島の風景は素晴らしく、放射能汚染さえなければ今でも四季折々の山の恵に調和した穏やかな生業が続いていたことでしょう。江戸時代以来のクヌギとコナラの薪炭林、戦後のエネルギー転換でシイタケ原木林として生き延びた山々にも大量の放射能が降り注ぎ、生業の場ではなくなっています。しかも、森林は除染対象ではないので、100年後を待つしかありません。

夕方、津島スクリーニング場に戻って防護服を脱ぎ、積算線量計の読み取りをした結果シートをもらって津島の現地研修は終了し、宿泊先の南相馬市小高区の双葉屋さんに向かいました。この国道は通行できるものの、両側は全て帰還困難区域であり、車内でも線量計は高い値を示し続けました。双葉屋さんは、南相馬市の「とどけ鳥」放射能測定所を支えてきた小林岳紀さん・友子さん夫妻が営む宿です。その岳紀さんが昨年亡くなってしまい、今では友子さんが一人で頑張っています。夕食後は、「俺たちの伝承館」の中筋純さんらが来てくれて、大盛り上がりの交流会が夜中の12時まで続きました。



【2日目】

小高の市民放射能測定室「とどけ鳥」と、おれたちの伝承館見学。大野駅。



翌日はまず、「おれたちの伝承館（おれ伝）」と、同じ敷地に移転した「とどけ鳥」測定所を見学しました。おれ伝には新たに図書室も設けられていました。子ども脱被ばく裁判原告団長の今野寿美男さんに館内案内をしていただき、中筋さんには今はもうなくなってしまった大熊町のストリートビュー（7メートルもある目抜き通りのまちなみ写真）を見せてもらいました。

「とどけ鳥」は原発労働者だった経験のある白髭幸雄さんが測定を引き継いでいます。1日目に赤宇木で採取した土壌を測ってもらうと、2万Bq/kgでした。おれ伝の軒先を借りて、空間線量計などの機種や何を測っているかの学習もしました。



次いで訪問したのが、震災遺構として残された請戸小学校です。1階はめちゃめちゃに破壊された教室が津波の威力を伝えます。2階に展示されている写真等で当時の様子がわかります。大津波が入道雲のように松林の向こうに見える写真には寒気がしました。津波が襲ってきたとき、授業中だった子どもたちと先生は、全速力で太平山まで走って助かったのだそうです。津波の到達点、浜辺からの距離など考えると本当に奇跡に思えます。請戸地区は津波の救助が原発の非常事態宣言により打ち切らざるを得なくなり、声が聞こえたのに助けられなかったという悲しい事実もあります。「原発事故さえなければ・・・」もっと助かった命もあったはずです。

続いて政府が建てた伝承館を見た後、大熊町の犬野駅近くに建った豪華な公共施設「CREVA（くれば）おおくま」に行ってみると、テレビアニメ「プリキュア」のコスチュームをまとった3人組のイベント開催中で、若い子連れのファミリーが握手を求めて列を作っていました。大熊町や双葉町では元住民の帰還者がほとんどいないかわりに、200万円ほどの補助金で誘われた若い移住者が増えているとの報道もあり、その実態の一部なのかもしれません。なお、「CREVA おおくま」の1階は除染土壌の中間貯蔵施設を運営管理するJESCO（中間貯蔵・環境安全事業株式会社）のショールームになっていて、除染土壌再生利用の安全キャンペーンを展開していました。大熊町立「学び舎ゆめの森」は0～15歳までが遊び・学ぶ学校で、大変立派な施設ですが、その周辺の林の線量は高いままです。周辺に生えている「土筆」をみんなで採取し持ち帰り測定することに。



全てのプログラムを無事消化して、バスの中で参加者の感想を聴きながら一路郡山駅へ。この研修はぜひ今後も続けてほしい、多くの方に参加してもらいたいという感想をいただきました。

研修中は、線量を測定し、2日間の被ばく量を推計することと研修レポートを書くことが課題。この課題の提出と口頭試験を経て、第1期「原子力災害被ばく防護士」が誕生することになります。

今回参加してくれたお一人、阿部さんの感想をご本人の許可のもと掲載します。

参加者の感想 阿部康人

実地研修をご企画いただいた「みんなのデータサイト」の皆様、本当にありがとうございました。この二日間は忘れられない研修旅行となりました。福島原子力発電所事故から14年が経過しましたが、「喉元過ぎれば熱さを忘れる」などと海外の研究者に言われるほど、今の日本社会では福島原子力発電所事故そのものが「過去の出来事」として忘却されているのではないかという印象を持っていました。しかしながら、今回の2日間の体験を通して自分自身が原発事故を「過去の出来事」として認識していたのではないかと思うに至りました。座学でご紹介いただきました測定器の一つを携帯して実地研修に参加しましたが、測定器がもたらす数値や音が視覚や聴覚を通して自身の感覚や認識にもたらしたものは言葉に言い表すのが難しいほど、目の前に見えている風景の意味を変容させていきました。さらには、実地研修の講師の方々との出会いや対話も言葉が追いつかないほど強烈なものでした。なかでも印象に残ったのが津島で生活されている今野さんたちとの出会いでした。我々、参加者はタイベックを身に纏いながら帰還困難区域のそばにいましたが、お二人はお二人のふるさとでタイベックを着ることなく普段着で過ごされていました。お二人の目からタイベックを着ている私たちがどのように見えるのだろうかということを考えたのを記憶しています。また、実地研修参加者の方々との対話からもいろんなことを考えました。福島県内ご出身のお二人と私を含めた県外からの参加者の中にある認識の違いのようなものについてはこれからも考え続けていければと思います。

最後になりましたが、原子力災害の防災や減災を考えるうえでもこの研修は非常に有意義であったと思います。原子力災害が起きてしまったらどのようなことが実際に起きるのかということを改めて理解することができました。先人たちが築いてきたものを次世代に受け継いでいくためにもけっして原子力災害は起こしてはならないし、また万が一起きてしまった場合は専門家に任せるのではなく、専門家の意見を参考にしながらも、市民が主体的に判断して行動することのできるリテラシーのようなものが重要だということを痛感しました。とりわけ日本のような地震が多い国で生活する私たちにとっては、そうしたリテラシーが市民に広く共有されることが極めて重要だと考えます。

【空間線量率を計測してみました】

2日間の実習中の主な行程と被ばく線量を、ホットスポットファインダー（HSF）という持ち歩きできてその場で地図に線量を記録できる装置により記録しました。

またその数値を計算することで、2日間の被ばく線量を推計しました。（C ラボ大沼章子）

HSFにて空間線量率を歩行計測した見学訪問地

- ①赤宇木
- ②冷田
- ③長安寺
- ④羽附
- ⑤津島稲荷神社
- ⑥津島開拓記念碑
松本屋旅館
津島診療所
- ⑦津島小学校
- ⑧津島スクリーニング場



- ⑨南相馬市
おれたちの伝承館

- ⑩医療法人博文会双葉病院
- ⑪CREVAおおくま
- ⑫大熊町学び舎夢の森

みんなのデータサイト：放射線被ばく防護士実地研修外部被ばく量の算出：2025/3/22-23

積算線量計：ALOKA社 Mydose mini PDM-122B-SHC

年月日	所要	時間	読取値 (μSv)	移動場	被ばく場	積算値 (μSv)	時間 (min)	被ばく線量率 ($\mu\text{Sv/h}$)
2025/3/22	8:30	10:00	0.1	福島市MDS福島ラボーJR郡山駅	マイクロバス内	0.1	90	0.07
	10:00	11:00	0.3	JR郡山駅ー田村市船引門鹿コンビニ	マイクロバス内	0.2	60	0.20
	11:00	11:30	0.7	田村市船引門鹿コンビニー浪江町津島活性化センター	マイクロバス内	0.4	30	0.80
	11:30	14:00	0.9	浪江町津島活性化センターー復興庁津島スクリーニング場	津島活性化センター屋内	0.2	150	0.08
	14:00	14:30	1.1	復興庁津島スクリーニング場ー赤宇木	マイクロバス+屋外	0.2	30	0.40
	14:30	14:50	1.2	赤宇木ー冷田	マイクロバス+屋外	0.1	20	0.30
	14:50	15:30	1.4	冷田ー長安寺	マイクロバス+屋外	0.2	40	0.30
	15:30	15:40	1.5	長安寺ー津島稲荷神社	マイクロバス+屋外	0.1	10	0.60
	15:40	16:00	1.6	津島稲荷神社ー津島開拓記念碑・松本旅館・津島診療所	マイクロバス+屋外	0.1	20	0.30
	16:00	16:40	1.9	津島開拓記念碑・松本旅館・津島診療所ー復興庁津島スクリーニング場	マイクロバス+屋外	0.3	40	0.45
	16:40	23:30	2.5	復興庁津島スクリーニング場ー津島活性化センターー双葉屋	ほぼ、マイクロバス内	0.6	410	0.09
	23:30	8:00	3.0	双葉屋2階ー双葉屋1階食堂	双葉屋2階屋内	0.5	510	0.06
	8:00	9:00	3.2	双葉屋1階	双葉屋1階屋内	0.2	60	0.20
2025/3/23	9:00	11:00	3.4	おれ達の伝承館の庭（30分）、とどけ鳥測定室内（30分）、おれたちの伝承館内（1時間）滞在ー震災遺構請戸小学校	おれ伝 屋内：屋外=1：1	0.2	120	0.10
	11:00	12:30	3.4	震災遺構請戸小学校ー双葉町産業交流センター	マイクロバス+屋内	0.0	90	0.00
	12:30	15:15	3.6	双葉町産業交流センターor東日本大震災・災害伝承館ー大熊町CREVAおおくま	マイクロバス+屋内	0.2	165	0.07
	15:15	18:00	3.8	大熊町CREVAおおくまー大熊町立学び舎ゆめの森周辺測定ーJR郡山駅	マイクロバス+屋外	0.2	165	0.07
	3/22 14:00（復興庁津島スクリーニング場）-16:40（同） 3/22 10:00（JR郡山駅）-3/23 18:00（同）				津島地区での被ばく総量 実習中の総被ばく線量	1.0 3.7		



津島診療所前で測定



測定器についての講義（おれ伝前にて）



今野秀則さんの「松本屋旅館」

【プロジェクトマネジャーから（あがのラボ・村上直行）】

第1期の「放射線被ばく防護士」養成講座の目玉である実地研修を無事行うことができた。被ばくから身を守り、放射線を正しく測定するには放射性物質の正体や放射線が出る仕組みなどを理解することは必須と考えるが、基礎レベルと思われた事項をしっかりと理解をしてもらうのはなかなか難しいことがわかった。他方で実地研修で実際に線量計のアラームが鳴り続け、数値が上がる様子を実感し、実習生たちの心には深く放射性物質の怖さが刻まれたようだ。今後も研鑽を続け、いざというときに身を守る市民レベルの被ばく防護士の自覚をもって活躍していただきたい。



今回実地研修に多大なるご力をいただいた、津島の今野秀則さん、今野邦彦さん、そしてこの研修にご協力いただいた「おれたちの伝承館」中筋純さん、小高の市民測定室「とどけ鳥」を案内いただいた白髭幸雄さん、そしてテキストの監修をいただいた小豆川勝美東大助教に深く感謝します。このプロジェクトの報告ページは左記 QR からご覧いただけます。今後報告をまとめてまいります。

福島市保健所との折衝

地域保健所の使命は「ネット販売品の監視ではない」と



福島市保健所

32年前に公開されたアニメ映画「機動警察パトレイバー2 the movie」の後藤隊長の台詞「まともでない役人には2種類の人間しかいないんだ。悪党か正義の味方だ」は、筆者の心に残る名言だ。子どものころ、嫌だなと感じた大人を逆説的に説明してくれている。ここでは子どものころに感じた嫌な大人、まともで普通の役人である福島市職員に遭遇した話を記す。

2020年、ふくしま30年プロジェクトでのコシアブラの放射能測定で食品基準を超えた事例が続いたため、筆者は福島市保健所に通報し行政対応を求め、厚生労働省からの通達も発出された。しかし、その後も繰り返される基準超過を受け、福島市保健所とのやり取りが続いた。保健所職員からは、「あと何件調べるのですか?」という質問が頻繁にされ、基準超過検体の引き取りにも支障が出始めた。2024年10月には、車を手配できないとの理由で検体の引き取りができなくなったことが告げられ、以

降は筆者側が保健所へ直接届けることになった。しかし、職員たちの怠慢は、放射性物質による晩発性影響に対する軽視だけでなく、他にも要因が存在していたのだということが後に分かった。

開示文書に関する筆者の問い合わせに対して、保健所担当部署職員が送ってきた回答メールには「予算に限り」「調査方法の変更」といった記述があり、検査の縮小が仄めかされていた。筆者は2025年2月上旬、福島県のローカル誌『政経東北』の記者と共に保健所を訪れ、詳しい説明を受けた。

福島市保健所職員は、食品衛生に関する基礎自治体の役割について、食品衛生法に基づき地域の食品安全を確保する施策を実施する責任があると説明した。例として、採取地が岩手県の場合、そ



福島市保健所検査棟

の自治体が責任を持つべきである、と。そして、放射性物質が食品基準を超えた不良食品について、福島市民への健康被害との関連性が低いと判断された場合には、その検査の実施を再検討するとし、特にインターネットで販売される商品については、検査を行わないことを明らかにした。この方針は、地域間の責任分担を明確にして地方自治体の役割を強調するものだったのだろう。

2020年度の対応についても、行政の収去検査は未開封品が対象であり、5年前はフリマサイトでの発見という緊急性により、特別にNPOが測定したものから未着手品を選択して行政で検査をして国に報告をしたとの説明がなされた。続いて、現在では国がフリマサイト等、ネット上で抜き打ち検査を行っていることを踏まえ、福島市保健所食品衛生係としても業務見直しに取り組んでいることが語られた。根拠としてNPO法人（福島ラボ）の測定結果が行政検査と遜色がないことが確認され、調査のための参考値として十分活用できること。さらにNPO法人（福島ラボ）からの申し立て保健所へ不良食品が持ち込まれるまでの経緯が不明のため、保健所での検査を行っても参考値にしかならない。よって無駄な検査をする必要が無いとして、検査を省略することが決まったとのことだった。

5 行政検査の実施について

- (1) 検体受領日 令和6年10月1日（火）
- (2) 検査機関 福島市保健所衛生課検査室
- (3) 検査結果
検査結果判明日 令和6年10月2日（水）

検体	核種別測定結果 (Bq/kg)					備考 (検体の状況等)
	セシウム-134		セシウム-137		放射性セシウム合算値	
検体名	測定結果	検出限界値	測定結果	検出限界値		
コウタケ (9/29 着、未検査)	79.9	3.58	5570	9.71	5600 (参考値)	※基準超過

行政検査結果：参考値の文字が確認できる。

フリマサイトでの匿名配送などは不確定要素が多いため、不良食品販売者の情報を追求するための調査には限界があり、これを問題視しているとも。食品衛生法に基づく営業を無視して規制外の販売を行うフリマサイト販売者を調査すること自体が職員にとっては不快感を誘い、意欲低下の要因の一つのようだった。総じて原理原則にのっとって変則的な業務を嫌い、広域に自治体同士が連携して仕事をするということにも消極的という、普通の基礎自治体職員(まともな役人)なのだろうと思う。

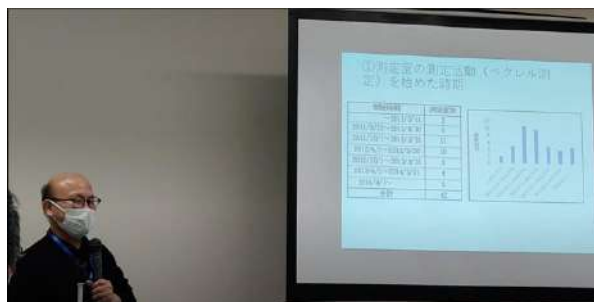
最後にユダヤ人大量虐殺の犯人アイヒマンの裁判傍聴記でハンナ・アーレントが「彼は殺人鬼ではなく凡庸な公務員だった」と記したことを思い出したところで本稿を締めたい。

(文責：阿部浩美 元ふくしま30年プロジェクト・現みんなのデータサイト福島ラボ)

★政経東北 2025 年 3 月号 76, 77 ページに「特集・原発事故から 14 年 メルカリで出回る汚染キノコ」の記事が掲載されています。ぜひご覧ください。

活動紹介

市民測定室のつくりかたプロジェクト（つくば市民放射能測定所・藤田康元）



昨年実施したアンケートの結果を報告書としてようやくまとめることができました。それを踏まえて3月に学術集会での発表も二件行いました。今後は回答を得られていない測定室を対象としたアンケートの追加調査と、昨年から続けているインタビュー調査に加え、いよいよガイドブック『測定室を作る』の執筆作業を進めます。



アンケート報告書は、<https://minnanods.net/tsukurikata/>（右のQR）から閲覧・ダウンロードできます。

郵送をご希望の方にはお送りいたしますので、事務局までお申し出ください。

たけのこ・山菜プロジェクト（中村奈保子・事務局）

今年も春のシーズンが巡ってきました。4月15日現在、たけのこはまだ2025年のデータの登録はありませんが、山菜については48件の測定結果が公開されています。幸い現在のところ基準値超えの検体はみつかっていないようです。こちらのページから旬の食材であるたけのこや山菜、野生のキノコの他、桃や栗、主食・

魚など、市民の皆様が「知りたい・気になる」と思うような25種類の食品の測定結果のイラストをクリックすることで簡単に見ることができますので、ぜひご覧ください。

<https://data.minnanods.net/seasonal/>



ハウスダスト測定用検体募集中（C-ラボ・大沼章子）



暮らしの中の身近な内部被ばく線源となるハウスダストの放射能を試験測定中です。

ハウスダストを集めた掃除機ゴミ（1～3か月分、100～200g）を送ってください。掃除機が紙パック式の場合は、紙パックゴミを丸ごと測定容器に詰めて測定します。掃除機から取り外した紙パックの口を空気を抜きながらテープで閉じてビニール袋で密封した後に

梱包して送ってください。また、サイクロン式掃除機の場合は、クリアビン内のゴミをビニール袋に集めたものをお送りください（郵便局のレターパックが便利です）。

上記QRコード（<https://minnanods.net/project/main.html>）ページ下の方の「ハウスダスト（掃除機ゴミ）プロジェクト」という青いタイトルの下に、呼びかけ文・要領とともに記入・同封いただくための「採取記録表」の書式があります。ダウンロードして印刷、もしくは次ページの記録表にご記入の上、下記住所宛てに測定検体と共に送ってください。

<<検体送付先>> 〒467-0058 愛知県名古屋市瑞穂区関取町146

未来につなげる・東海ネット 市民放射能測定センター（C-ラボ）

TEL: 052-836-3116 メールアドレス：tnet_sokutei@xg7.so-net.ne.jp

編集後記：放射線被ばく防護士の実地研修で訪れた津島。住民が力を合わせて十年かけて編纂した「百年後の子孫たちへ」という記録誌をデータサイトで1冊ご恵贈いただいた。江戸時代から続く歴史ある家も多く、また満蒙開拓団が引き上げて入植した地でもあるそう。厳しい開拓時代もあったと思うが住民同士支え合い、豊かな自然の中みんなで子育てし、幸せに暮らしていた。800ページを超えるこの記録誌に無念の言葉は一言もないが、1冊まるごと全てが失われた「無念」。記録誌についてのお話し会ができたと思うものの、オンラインの実施は難しそうで残念。（事務局・中村）

ハウスダスト採取記録表

※採取者名			
※採取者住所			
※電話番号・メールアドレス	tel:	e-mail:	
採取装置	メーカー：	型式：	
※紙パックとビニール袋の 空重量	紙パック： 重量が測れない場合は、空の紙パックと使用したビニール袋を余分に送って下さい。	(グラム)	ビニール袋； (グラム)
※採取期間（年月日）	～		
※建物住所	採取者住所に同じ・別（ ）		
※建物の種別	階建て（木造・木造モルタル・コンクリート、その他） 一軒家・集合住宅・マンション		
※周囲の環境	商業地・住宅地・農村・山林・その他、 土埃：多い・少ない (自由記載：)		
居住者構成	人家族（うち、子ども 人）、 ペット（猫 匹、犬 匹、その他 ）		
清掃方法	毎日・週 回		

※付きは必須項目となっていますので、必ずご記入ください。

測定試料送付先

〒467-0058

愛知県名古屋市長瀬区関取町146

未来につなげる・東海ネット

市民放射能測定センター（C-ラゾ）

TEL: 052-836-3116

メールアドレス：tnet_sokutei@xg7.so-net.ne.jp

連絡・問い合わせ先

〒960-0201

福島県福島市飯坂町字一本松11-7

NPO法人みんなのデータサイト

TEL: 024-573-5761

FAX: 024-573-5698

メールアドレス：minnanods@gmail.com

